

鳥 取 県 県 南 地 域

土 地 分 類 基 本 調 査

根 雨 ・ 湯 本

5 万 分 の 1

国 土 調 査

鳥 取 県

1 9 7 7

ま え が き

国土の秩序ある利用を図ることは、人口がちょう密で土地資源が限られている我が国において緊急かつ重要な課題であるが、その基本的理念は、国土が国民の生活及び生産の共通の基盤であることを念頭に置き、公共の福祉を優先させ、自然環境を損わず、地域の自然的、社会的及び文化的特性を配慮した均衡ある発展が図られるものでなければならない。

鳥取県は、山陰の中央部に位置し、その地理的、気象的条件から土地利用の発展が遅れていたが、それだけに未利用部分は多く、利用発展の可能性をもっている。この利用発展を具体化するため高速交通体系及び各種産業開発構想等が計画として策定されている。

幸い国において土地利用に関する具体的な公的プロジェクトのある地域の土地条件を明らかにするために、国土調査法に基づく都道府県土地分類基本調査が設けられているが、これは、土地の利用や規制に関する計画の基礎的な資料を提供するものとなっている。本県としてもこのような情勢に即応して、昭和48～51年度に「赤碓」「大山」「青谷」「倉吉」「鳥取北部」「鳥取南部」「浜坂」「若桜」「村岡」（建設省国土地理院発行縮尺5万分の1地形図）を実施したのに引き続き鳥取県南地域の土地分類基本調査として「根雨」「湯本」（同図）の鳥取県の区域を国土調査の指定を受け都道府県土地分類基本調査実施大綱及び鳥取県南地域都道府県土地分類基本調査作業規程に基づき、地形分類図、表層地質図、土じょう図、傾斜区分図、水系谷密度図、開発規制図、土地利用現況図の7図集と簿冊を作成した。

今後も、残りの図幅について逐次実施し、全県下の図幅について作成する予定である。

目 次

まえがき

総 論

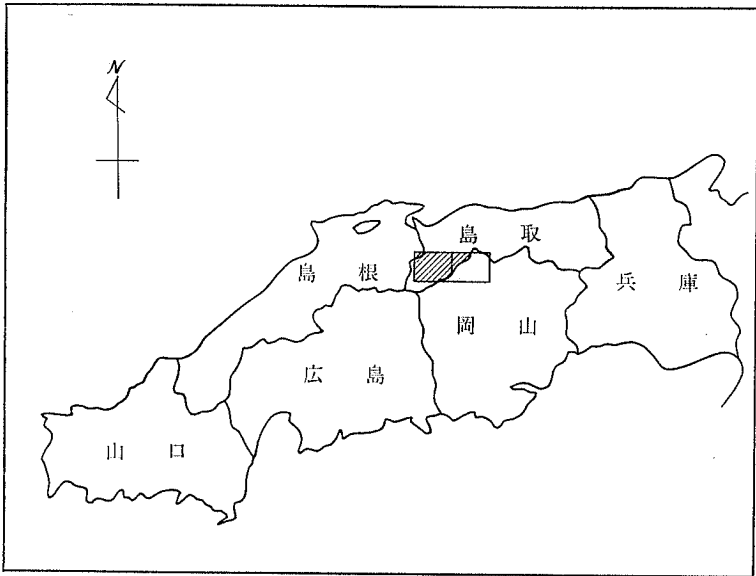
I 位置、行政区画	1
II 人 口	2
III 地域の特性	4
IV 開発の方向と主な基本計画	8

各 論

I 地形分類図	10
II 表層地質図	12
III 土じょう図	18
IV 水系谷密度図	25
V 傾斜区分図	26
VI 開発規制図	27
VII 土地利用現況図	31

あ が き

位置図



総論

I 位置・行政区画

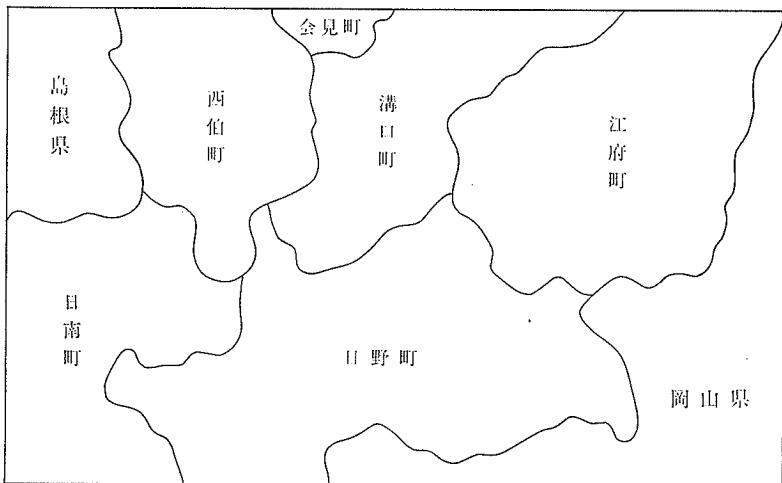
1 位置

この図葉は北緯 $35^{\circ}10'$ から $35^{\circ}20'$ まで、東経 $133^{\circ}15'$ から $133^{\circ}36'$ までの範囲である。

2 行政区画

この図の行政区画は、日野町、日南町、西伯町、会見町、溝口町及び江府町の6町からなり、図の西北には島根県、東南には岡山県が位置している。

第1図 行政区画



Ⅱ 人 口

本地域は鳥取県の西南部に当たり、米子市の南方に位置している。図の北西部の西伯町、会見町は米子市に距離的に接近しているので、その近郊地域となり、米子の経済圏に完全に組み込まれている。それに対して図の南部を占める日南町と日野町は広い意味では米子の経済圏に入るけれども、米子市との距離が遠いためにつながりは弱い。江府町及び溝口町は距離的にも経済的關係でも中間的な位置にある。

第1表によって、人口動態をみると、西伯町は昭和47年までは人口が減少していたが、昭和48年から増加傾向を示している。また会見町は昭和49年からは人口が増加に転じている。しかし日野郡の各町は最近人口の減少率が小さくなっているものの、まだ人口増加に転ずるに至っていない。

人口増減の主たる内容は、社会増及び社会減で、日野郡では若年層の人口流出が進行していることを物語る。また西伯町や会見町の人口の社会増は、米子市の都市化の外延的拡大ともなって転入者が増加したものと思われる。

世帯数の推移をみると、西伯町、会見町、溝口町は年々僅かずつ増加しているのに対し、日南町、日野町、江府町は少しづつ減少してきている。このようにみると、日野郡における人口減少や世帯数の減少は、過疎化の一つの現われであり、更に人口の老令化などの問題もあるので、地域の発展のために適切な対策が必要である。

第1表 世帯数、人口、人口移動状況

県統計課

区分		年次						
		昭和45年	昭和46年	昭和47年	昭和48年	昭和49年	昭和50年	昭和51年
西 伯 郡	西 伯 町	世帯数 1,731 7,331	1,646 7,266	1,671 7,261	1,708 7,306	1,760 7,448	1,825 7,750	1,875 7,876
	人口移動状況 { 総自社 然増 会増 社増 減減 減減		△ 65 △ 29 △ 36	△ 5 5 △ 10	45 1 46	142 2 140	302 22 280	126 8 118
西 伯 郡	会 見 町	世帯数 825 3,795	830 3,722	826 3,677	825 3,664	829 3,683	836 3,661	865 3,743
	人口移動状況 { 総自社 然増 会増 社増 減減 減減		△ 73 1 △ 74	△ 45 7 △ 52	△ 13 8 △ 21	19 12 7	△ 22 △ 2 △ 20	82 14 68
日 野 郡	日 南 町	世帯数 2,796 10,562	2,725 10,583	2,707 10,362	2,681 10,177	2,655 9,962	2,639 9,730	2,633 9,599
	人口移動状況 { 総自社 然増 会増 社増 減減 減減		21 8 13	△ 221 △ 29 △ 192	△ 185 △ 5 △ 180	△ 215 △ 21 △ 194	△ 232 △ 38 △ 194	△ 131 △ 45 △ 86
日 野 郡	日 野 町	世帯数 1,710 6,966	1,738 6,658	1,732 6,518	1,746 6,462	1,720 6,403	1,704 6,362	1,691 6,251
	人口移動状況 { 総自社 然増 会増 社増 減減 減減		△ 308 10 △ 318	△ 140 15 △ 155	△ 56 14 △ 70	△ 59 18 △ 77	△ 41 0 △ 41	△ 111 △ 14 △ 97
日 野 郡	江 府 町	世帯数 1,293 5,619	1,292 5,371	1,281 5,282	1,285 5,206	1,284 5,134	1,268 5,025	1,259 4,988
	人口移動状況 { 総自社 然増 会増 社増 減減 減減		△ 248 1 △ 249	△ 89 △ 10 △ 79	△ 76 △ 1 △ 75	△ 72 △ 20 △ 52	△ 109 △ 2 △ 107	△ 37 △ 3 △ 34
日 野 郡	溝 口 町	世帯数 1,520 6,406	1,536 6,449	1,527 6,354	1,529 6,229	1,535 6,149	1,547 6,002	1,548 5,988
	人口移動状況 { 総自社 然増 会増 社増 減減 減減		43 △ 14 57	△ 95 △ 16 △ 79	△ 125 △ 3 △ 122	△ 80 △ 5 △ 75	△ 147 △ 6 △ 153	△ 14 △ 22 8

Ⅲ 地 域 の 特 性

1 自然的特性

本地域は山地の面積が広く、平地や台地の面積が少ない。したがって第2表のように林野面積が広く、山村ないし農山村の色彩が濃厚であり、第2次、第3次産業は不振で、この地域全体の発展を阻害している。また第1次産業のうち農業は専業率が6%内外と低く、耕地面積が狭いことや、気候環境が高冷地的であるために停滞的である。

第2表 耕地・山林面積一覧 (単位ha)

	総面積	田	畑	樹園地	宅地	山林
西伯町	8318	782	74	18	94	2706
会見町	3104	437	106	66	47	947
日南町	34083	1469	179	65	125	9814
日野町	13287	431	81	18	73	3004
江府町	12489	618	162	22	57	2707
溝口町	10006	658	201	35	88	2622

(1975年農業センサス等による)

気候は冬季の積雪と雨の多い山陰型気候であるが、年降水量をみると鳥取県内でも少ない方で、1600～1750mmにすぎない。これは鳥取市や境港市などが2,000mmを越すのに比べると300～400mmも少ない。しかし南大山の鏡ヶ成では3,000mmに達しているように海拔高度の高い山地では雨量が多くなる傾向がある。積雪量も地形によって変動が大きい。年平均気温も海岸部に比べて1～2°C低温で、境港市が15°C、米子市が14.5°Cに対し、黒坂で13°C、根雨は13.8°Cである。

根雨、黒坂、江尾などでは卓越風向は日野川の谷の方向によって限定されるから、SないしSWの風が多く、次いでNEの風が多い。

2 歴史的特性

本地域は海岸部に比べて縄文遺跡の数が少ない。江府町助沢、日南町折渡、印賀、下多田などの遺跡が代表的なものである。弥生時代の遺跡も数が少ないが、日野川沿いの微高地や台地上に分布し、櫛目文をもつ土器や磨製石斧、石棒などを出土している。

古墳時代の遺跡は日南町印賀、下多田、江府町宮市、西伯町落合などに集中している。日野郡の弥生、古墳時代の遺跡は、縄文遺跡と同様に海岸部に比べて数が少ない。

しかしその分布特性からこれらの遺跡の多くはタタラ製鉄と関係があったのではないかと推測されている。

中世の戦乱時代から江戸時代にかけて、大山寺の寺領の中に南大山の広大な火山裾野が組み入られて行った。一方、江尾、黒坂などの要地に城と城下町が築かれた。

日野郡は鳥取県で最もタタラ製鉄の盛行した地方であり、大規模に砂流しを行ない、木炭を焼き、すぐれた印賀はがねを生産してきた。そして一方では製品の運搬に牛や馬の背を利用したこともあり牧畜が盛んとなった。

3 社会的、経済的特性

(1) 南大山のクロボク地帯では「高原大根」（夏大根）や牧畜に特色がみられ、西伯町、会見町では二十世紀ナシや花木などの栽培が目立つけれども、一般的には稲作経営が主体の農業であり、葉タバコもかなり栽培されている。しかし農業のみでは、農家経済を支えることはむずかしく、林業や第2次・第3次産業との兼業によって生活を支えているケースが多い。そのため出稼ぎやサラリーマン化が増大しつつある状況である。

(2) 林業

本地域には国有林が少なく民有林が卓越する。その比率は日野町で1：9である。またタタラ製鉄のために炭の需要が多かったから、古来製炭地帯でもあった。その他現在は特殊林産物として、しいたけ、クリ、苗木などの生産が行なわれつつある。また製材やチップ製造などが主要集落内の工場で行なわれている。

(3) 鉱工業

本地域の工業は「農村工業導入計画」等で誘致されたものが若干ある。それらは食品、木製品製造、電気部品、縫製、衣服製造などの労働力指向型の業種が多い。

(4) 観光

本地域には国立公園大山地域と奥日野県立自然公園とが含まれている。後者にも鶴の池、石霞溪などのすぐれた景勝地がある。これらの観光資源を活かして地域の振興に役立てるため、交通条件（道路、駐車場など）の改善や休養・宿泊施設の整備が行なわれ、たとえば江府町では「南大山地区自然休養村計画」が実施されつつある。

(5) 本図葉に係る市町村の就業構造と産業別事業所数・販売・出荷額を記すと第3表、第4表のとおりである。

第3表 就業構造

昭和50年国勢調査

区分	市町村名		日野郡			
	西伯郡	会見町	日南町	日野町	江府町	溝口町
農業	1,450	889	3,185	1,086	1,455	1,612
林業・狩猟業	24	—	249	91	30	23
漁業・水産養殖業	3	2	—	1	1	3
鉱業	1	4	171	8	4	12
建設業	368	194	352	355	343	286
製造業	779	377	512	420	338	401
卸売業・小売業	621	265	466	460	305	369
金融・保険業	50	23	24	38	26	47
不動産業	7	—	2	6	3	5
運輸・通信業	389	133	228	237	131	202
電気・ガス・水道業	12	6	8	23	22	15
サービス業	624	268	569	522	328	518
公務	117	74	120	166	86	132
その他	6	2	1	3	1	4

第4表 産業別事業所数・販売・出荷額等

市町村名		西伯郡		日野郡			
		西伯町	会見町	日南町	日野町	江府町	溝口町
工業	事業所数	20	7	48	25	19	11
	従業者数	714	192	742	283	256	253
	製造品出荷額等 (100万円)	2,431	962	1,325	987	742	1,419
商業	商店数	93	33	206	119	84	72
	年間販売額 (100万円)	1,874	532	2,800	2,753	1,363	2,137
農業	農家数	1,168	652	1,836	766	889	1,084
	(専業)	46	54	130	30	67	108
	(兼業)	1,122	598	1,706	736	822	976
	生産農業所得 (100万円)	877	723	1,457	445	718	904
	耕地面積総数 (ha)	1,070	740	1,910	625	926	1,020
	田	923	510	1,659	517	698	764
	畑	147	230	251	108	228	256

昭和51年工業統計調査

昭和51年商業統計調査

昭和50～51年農林水産統計

Ⅳ 開発の方向と主な基本計画

1 農 林 業

各町とも業農の近代化、合理化をして、経営条件を改善するために基盤整備事業をすすめ、協同化や大型機械の導入などをはかっている。また稲作主体の農業を畜産やそ菜、果樹などと組合せ多角的農業にしようとする努力も行なわれている。また南大山では観光農業や高冷地野菜、乳牛などの方向を歩みつつある。江府町俣野から下蚊屋を通り西伯郡中山町にいたる西部広域農道は近い将来開通するが、本地域の農業に大きなメリットを与えられると思われる。また、林業の振興と地域開発を狙いとした大規模林道が江尾一広瀬にかけて計画されている。

2 鉱 工 業

本地域の西伯町、会見町、溝口町は中海新産都指定地域に入っている。また、本地域は米子市の後背地を形成している。したがって本地域の開発の方向は、米子市を中心とした商工業の発展と関連させて考えるべきである。

現在までに本地域に導入された企業は、西伯町の大手食品工場を除けば規模の小さいものが多い。地元としては、内陸工業導入にあたっては、女子型、単純労働指向の工場ではなく、堅実な男子型の優良業種を強く希望している。

3 交 通 体 系

本地域には米子を起点として、国道 180、181、183号の3本の幹線道路が山陽側との連絡道として重要な役割を果たしている。しかし自動車交通量の増大に対処するため道路の拡幅、バイパス化（法勝寺バイパス、大江バイパス、萱原バイパス、溝口バイパスなど）、四十曲峠、谷田峠、鍵掛峠の改善などの課題がある。

高速自動車道としては中国横断自動車道（米子―岡山）が本地域を横断して、中国縦貫道と連結することになっているので、この建設を促進することとしている。

また、国鉄伯備線の電化と複線化をすすめて輸送力の増大とスピード化をはかっている。

4 そ の 他

本地域には、菅沢地区にダムを作り、日南湖がつくられており、中海工業地帯の水資源を確保している。

また江府町地内と岡山県にかけて 100万KWの揚水式発電が計画されている。

本地域は国立，県立の公園地区が広く，すぐれた景観に恵まれているので，このような自然環境の保全をはかりつつ，活力ある地域の開発をはかるため，ひき続ききめ細かな振興計画が必要である。

(鳥取大学 文部教官 豊島 吉則)

各 論

I 地形分類図

1 地形概説

本図葉内で最も高い山は、図の東南部の毛無山で海拔 1,218mである。この山に連なる岡山県との県境をなす山々は、金ヶ谷山 1,164m, 朝鍋鷲ヶ山 1,078m, 二子山 1,075m, 三平山 1,010mなどの如く海拔 1,000mを越す壯年山地がみられ、中国山地の一部を形成している。

図の西南部の山地は海拔 600m内外の定高性を示し、高原状地形からなり、山背はやや丸みを帯びたり、平坦面を残している場合がある。図の東北部は大山火山とその火山裾野の合地状地形からなり、なだらかな丘陵性ないし合地状の地形が卓越する。図の西北部は丘陵性の山地からなり、標高 200～300mの低起伏の山々が卓越している。

2 地形細説

2-1 山地

I a の法勝寺丘陵性山地は花崗岩や流紋岩からなる 300m以下の山地で、稜線は丸みを帯びてなだらかであり、西伯町には丘陵上に花木園地が造成されている。I b の越敷山丘陵性山地は広い平坦面をもつ地形がみられる。これは玄武岩類の山地であり、山頂部に平坦面をもつ溶岩台地と考えられる。I c は高原状の日野山地で、花崗岩が卓越し、海拔 600m内外の準平原地形であると考えられる。この地域には崩壊地形が数多く認められ、山地は禿山化したり、草原になっているものも多い。またこれらの花崗岩山地を刻む谷の上流部には崖錐状の砂れきの堆積地形がみられる。このような地形の多くは、花崗岩の風化土砂から「山砂鉄」をうるために鉄穴（カンナ）流しを行なった人工的地形であるらしい。

I d, I e, I f の山地は、花崗岩や古生層からなる起伏の大きな山地で、一般に山腹の傾斜も大きい。

I g は三平山で、トロイデ状の形態をなし火山岩で構成される孤立山地である。I h は大山火山の外輪山を構成する小起伏山地である。

2-2 台地

台地地形としては、大山南ろくの鏡ヶ成、宮市原、大河原などの火山灰砂の合地地形が、小起伏火山地を侵食した谷を埋めるように発達している。また古市付近や生山付近

など、日野川沿いに河岸段丘が発達し、3段（高位、中位、低位）くらいみられる。

2-3 低地

河川に沿って細長く谷底平野が分布し、微地形としては山麓に崖錐がみられる。また法勝寺川沿いに小規模の自然堤防がある。

2-4 その他

山頂平坦面と山腹斜面との境界に沿って遷急点が発達し、山頂平坦面上には前輪廻の谷が存在する。また印賀川中流に旧流路を示す環流丘陵の地形があり、黒坂背後の天郷川と菅沢川との間で河川流路の争奪を行なった地形が、久住付近に残存している。奇岩怪石などの名勝を形成する地形としては、江尾北方の美女石付近の峡谷地形、生山付近の峡谷地形があげられる。俣野川中流のポットホール、滝山神社付近の滝、西伯町の金華山の集塊岩の崖や洞くつも特色ある地形である。

（鳥取大学 文部教官 豊島 吉則）

Ⅱ 表層地質図

1 表層地質概説

本図葉に分布する堆積物および岩石は未固結堆積物，半固結堆積物，固結堆積物，未固結火山性堆積物，半固結火山性堆積物，火山岩，深成岩および変成岩である。大観すると日野川の右岸に大山火山源の火山性岩石および堆積物が，左岸には花崗岩質岩石が分布し，新第三系は図葉の北西部に限って分布する。

変成岩は図葉の南域と東域に分布している。花崗岩等の深成岩は図葉内にもっとも広く分布しており，深層風化した「マサ状砂」は古来カナナ流して砂鉄採集の原料として有名であった。

火山岩は新第三系に属し，石見層群の一部が見られるのみである。

半固結火山性堆積物は大山火山の流下物である，未固結火山性堆積物は広く分布するローム（火山灰）であるが，多くは大山火山起源物であり，一部に三瓶火山の降下物が混入している。

固結堆積物は蒜山原層に対比される湖沼成堆積物で俣野川上流，御机などに局部的にみられる。

半固結堆積物は洪積世の段丘堆積物，火山灰に被覆される古い崖錐堆積物を一括した，未固結堆積物は現河床堆積物で沖積層である。一部に人工改変による，平坦な堆積地形があるが，これも含めた。

断層は古期岩類である変成岩，花崗岩類に見られ，日野川の流路はこれらに適従しているものようである。

表層地質総括は第5表に示したとおりである。

第5表

表層地質総括表

地質時代	堆積物			火山性堆積物			火山岩	深成岩	変成岩
	未固結	半固結	固結	未固結	半固結	固結			
新 生 代	完新世 A.	砂れき3 Sg ₃ 砕屑物 Cl							
	更新世 D.		砂れき2 Sg ₂ 砂れき1 Sg ₁	泥岩 Qh	火山砕屑物 Pmn (火山灰) L	凝灰岩質岩石 Trm	安山岩質岩石 A ₃ 安山岩質岩石 A ₂ 玄武岩質岩石 B		
	鮮新世 Plio.								
C	中新世 Tn						凝灰岩質岩石 R ₃ 凝灰岩質岩石 R ₂ 安山岩質岩石 A ₁ 凝灰岩質岩石 R ₁		
	中生代 M						安山岩質岩石 Mv 花崗岩質岩石 C ₄ 花崗岩質岩石 C ₃ 花崗岩質岩石 C ₂ ハンレイ岩質岩石 Gb 花崗岩質岩石 C ₁		
古 生 代 P								緑色片岩 Gs 黒色片岩 Bs	

2 表層地質細説

(1) 未固結堆積物

砂れき3 (Sg3)

日野川本流の谷底平地，とくに支流との合流点で広く厚く堆積する，法勝寺川では法勝寺付近によく発達している。現河床堆積物で未固結後背地の地質を反映して，花崗岩類，火山岩類の円れきが多い。花崗岩地の表層には「カナナ流し」の副産物として人工改変地が谷底によく見られるが，これもこゝに含めた。

砕屑物 (Cl)

完新世の崖錐および扇状地堆積物をこゝに一括した，山ろく斜面や山脚部に発達し，淘汰の悪い亜角れき～角れきを主とする，明地峠，四十曲附近には大規模に発達している。

(2) 半固結堆積物

砂れき2 (Sg2)

下位段丘堆積物で沖積面より高位に発達するが，火山灰の発達するものと確認でき

ないものがある。砂れき3より固結度はよい。

砂れき1 (Sg1)

上位段丘堆積物で砂れき2より更に上位に位置しており、洪積世のものである。火山灰によって被覆されることがある。風化しかゝったものであるが、いわゆる“高位段丘に相当するものはない、日野川本流沿いの両岸、俣野川沿いの両岸、など図葉の東域に集中して分布している。

(3) 未固結火山性堆積物

ローム(火山灰)(L)

主に大山火山に由来する降下火山灰層であるが西部では三瓶火山の降下物も含めた、ローム化した火山灰で軽石層を含み「ミソソチ」と呼ばれている。厚さは局部的に厚く、西伯町、会見町でも1m以上のところがある。日南町印賀でも30cm土の厚さがある。大山山ろくでは厚層で大山最下部火山灰層、中部火山灰層、上部火山灰層が揃って認識できる。

(4) 半固結火山性堆積物

火山砕屑物(Pmn)

大山火山の名和火砕流で半固結火山性堆積物である。黒雲母角閃石安山岩質の火砕物であるから灰白色～暗灰黒色を呈し「大山シラス」と土地の人が呼んでいる。鳥山起源の火山砕屑物もこれに一括した、大山からの流下物なので平らな裾野をつくり、江尾、根雨原、大滝などに達している。なお、一部では日野川の左岸にまで分布している。

凝灰岩質岩石(Trm)

溝口凝灰岩、もしくは東伯凝灰岩と呼んでいる更新世の古期大山半固結堆積物をこゝに一括した。凝灰角れき岩質であるが、風化していわゆる“くさりれき”化している。図葉の北東域のみに分布し、大山の中心部にむかって高度を増す、岩質は安山岩質である。

(5) 固結堆積物

泥岩(Qh)

蒜山南ろくの蒜山原に発達する湖成の蒜山原層の一部が内海岬を越えて鳥取県側に分布する、亜炭層をはさみ、珪藻土質の部分もあるが泥岩として一括した。助沢と御

机に見られることから大山火山の堆積物の下には広く分布すると考えられる。

(6) 火山性岩石 (固結)

安山岩質岩石 3 (A 3)

図葉の北東隅の隅に分布する大山外輪山溶岩である、岩質は両輝石安山岩である。

安山岩質岩石 2 (A 2)

図葉の北東隅にわずかに分布する蒜山安山岩類である。蒜山安山岩は角閃石安山岩質の溶岩と火砕岩からなり、大山外輪山溶岩より古期のものである。

玄武岩質岩石 (B)

溝口町鶴田付近に分布する玄武岩で噴火の時期は洪積世と考えられる。花崗岩を貫いて分布するが碎屑物からなることもある。花崗岩台地上に点在し、日南町では噴出物がドームをつくっている。活動の時期は一回ではないと考えられる。

流紋岩質岩石 3 (R 3)

湯本図巾東端に位置する高松山に分布する流紋岩質岩石である。したがって本図葉内には分布しない、高松山流紋岩は花崗岩類の上ののり、直接時代を示す証拠はないが地形から推して新第三紀のものと考えられる。

流紋岩質岩石 2 (R 2)

図葉の北西部、西伯町に分布する中新統石見層群中部の流紋岩溶岩および火砕岩である。「米子」図巾で法勝寺凝灰岩と呼んだもので、西伯郡西伯町福頼附近で厚く堆積した火山碎屑岩が見られる。

安山岩質岩石 1 (A 1)

流紋岩質岩石 2 の下に発達する安山岩～玄武岩およびそれらの火山碎屑岩類で「米子」図巾で清水安山岩としたものである。西伯町金華山でも流紋岩質岩石 2 と基盤の花崗岩の間に認められる。

流紋岩質岩石 1 (R 1)

図葉の北西部県境付近に小籠図に分布する。母里流紋岩と呼んでいるもので、その時代については疑問の点もある。すなわち、花崗岩に直接のり、孤立して分布して層準は不明である。

流紋岩質岩石 (Mv)

図葉の東域に分布する中生代末期の火山岩類を一括した。三平山安山岩類と呼ばれ

ているもので、流紋岩のほか、石英安山岩、安山岩質岩石も含めている。溶結した部分もあり、常に花崗岩類と伴って分布している。

(7) 深成岩

花崗岩質岩石 4 (Gr 4)

中生代末期の深成岩のうち最後に貫入したアプライト質～ペグマタイト質花崗岩である。図葉内の中央部に比較的小岩体として分布している。

花崗岩質岩石 3 (Gr 3)

図葉内に最も広く分布する粗粒黒雲母花崗岩で、鳥取花崗岩に相当するものである。珪状黒雲母花崗岩を一括したが、これは漸移するものようである。また、図葉北西部に分布する角閃石含有黒雲母花崗閃緑岩・黒雲母花崗斑岩、黒雲母文象斑岩など、従来、第Ⅱ期侵入岩類とされていたものも一括した。これらの岩石は準平原上に露出し、深層風化をうけていて、砂鉄原料のマサになっている。

花崗岩質岩石 2 (Gr 2)

黒雲母花崗斑岩～文象斑岩で、鉛山文象斑岩と呼ばれている第Ⅱ期侵入岩類を区別したものである。俣野川の南、宝仏山の北に小岩体をなして分布する。

ハンレイ岩質岩石 (Gb)

図葉南東部の古生層分布地域に小岩体として分布する、第Ⅰ期侵入岩類の角閃石輝石閃緑斑岩・角閃石輝石閃緑岩ないし橄欖石角閃石輝石斑岩である。明地峠付近では粗粒である明地峠付近では粗粒であり、石材として採掘されていた。

花崗岩質岩石 1 (Gr 1)

溝口町鬼住山、江府町下村および日南町熊^{くまこ}塔付近に分布する第Ⅰ期侵入岩類の片麻状角閃石黒雲母花崗閃緑岩で江尾花崗岩類と呼ばれているものである。しばしば片麻状構造を示し、混成岩の部分や破碎された部分があって複雑である。

(8) 変成岩

緑色片岩 (Gs)

緑色千枚岩～緑色片岩を一括したもので、図葉の東域、日野川の右岸にはほぼ、東西の走向で、4つのブロックに分かれて帯状に分布する。江尾駅南西の緑色岩は非変成古生層として別記したものもあるが一括した。源岩は火山岩源砕屑岩で塩基性岩源である。花崗岩類と接するものは著しく熱変成作用をうけている。

黒色片岩 (Bs)

三郡変成岩に属する泥質源岩が弱変成作用をうけた黒色片岩で、源岩は粘板岩、チャート砂岩などである。図葉の南西隅の黒色片岩は変成の岩石であり、江尾付近に分布するものは非片状のものとされているがごく小範囲であり、黒色片岩に一括して示した。花崗岩類に接するものは著しく熱変成作用をうけ、曹長石点紋を含むものもある、一般走向は西北西—東南東で南傾斜である。源岩の地質時代は古生代石炭紀～二疊紀である。

3 応用地質

(1) 災害

図葉内に分布する花崗岩類は風化がいちじるしく、日南町、日野町、江府町の日野川左岸の石見高原の上にはいたるところにカンナ流しを行なった跡地が見られる、とくに花崗岩類のなかでも花崗岩質岩石3 (G3) は風化殻が厚く、山地崩壊については十分に注意を要するところである、表層が植生で被覆されているときには、風化殻が保護されていて安定しているが、伐採後数年以内の裸地の状態の場合、集中豪雨があると、大きい被害が予想される。

また、大山火山の碎屑物である半固結～固結火山性堆積物 (Pmn, Trn) は急崖をつくっている、これらは外観から感じるほど崩壊は速くはないが、台地上の表流水が滲透したり、表層のローム層を削離したり、植物による被覆状態がなくなったりすると急速に浸食崩壊がおこることがあるので留意する必要がある。

岡山県境に近い峠部では地質構造上、断層、節理の発達がいちじるしく、岩相変化もいちじるしく、地形的にも急峻であるから路線の崩壊、落石などについては留意しなければならない。

(2) 鉱床

図葉内には現在稼行されている鉱山はない、しかし、近世まで当地域は全国有数の砂鉄産地として知られていた、その採鉱法は“カンナ流し”によるもので図葉内の人工改変地のほとんどがその跡地である。風化した花崗岩中の「ガマ」は良質の紫水晶を産出することも古来有名で溝口町藤屋がその主産地であった。

後谷鉱山は宝仏山の中腹にあり、変成された古生層中に不規則な鉱体があって、銅鉛、亜鉛を産出した。

珪石が武庫付付近で小規模に採掘されたことがある、これは石英閃緑岩に貫入する石英脈をとり出したものであるが、現在は休業中である。

江府町助沢（と御机）に亜炭鉱山があった第四紀の蒜山原層に由来するものであるが量、質ともによくないので廃坑となった。

(3) 石 材

図葉内に石材の採掘所が点在する。多くは骨材山であり、明地峠の北側、山腹斜面には黒みかげとして角材あるいは割石を出したが現在は利用していない。

(4) 地下水・温泉

大山火山の裾野には豊富な地下水が湧出している。溝口町大原などに見られる。日南町菅沢西伯町鳴部では湯徴があり、前者ではボーリングをされ利用されている。

（鳥取大学 文部教官 赤木 三郎）

Ⅲ 土 じ ょ う 図

1 山地および丘陵地域の土じょう

1-1 土じょうの概要

本調査地は、鳥取県の西南部の日野川の中流で「米子」「大山」図幅の南にあたり西を鳥根県、東を岡山県に接し、この中には、日野林業地が存在している。

出現する土じょうは、未熟土、かつ色森林土、黒ボク土に大別され、これらは、地形地質などにより各々特徴をもった土じょうを形成し分布している。

「米子」図幅に接した低山丘陵地の西伯町を中心として、かつ色森林土じょう（黄かつ系）が出現し、日野川支流野上川流域の溝口町の低山丘陵地には、かつ色森林土じょう（赤かつ系）が分布し、日野川本流域の江府町、日野町、日南町には、広くかつ色森林土じょうが分布している。「大山」図幅に接した東部を中心に黒ボク土じょうがみられる。また日南町高宮地区には過去においてカンナ、タカラなど砂鉄採取と製炭業がおこなわれ、花崗岩の深層風化したマサ土や基岩の露出した粗粒残積性未熟土じょうが一

部に分布している。

これら出現する土じょうをとりまとめると、4土じょう群、11土じょう統群となり、次表のごとくとなる。

第6表 山地および、丘陵地域の土じょう一覧表

土じょう群	土じょう統群	記号
岩石地	岩石地	RL
未熟土	粗粒残積性未熟土じょう	RG-C
かっ色森林土	乾性かっ色森林土じょう	B-d
	かっ色森林土じょう	B
	湿性かっ色森林土じょう	B-W
	乾性かっ色森林土じょう(黄かつ系)	B(Y)-d
	かっ色森林土じょう(黄かつ系)	B(Y)
	乾性かっ色森林土じょう(赤かつ系)	B(R)-d
黒ボク土	かっ色森林土じょう(赤かつ系)	B(R)
	厚層黒ボク土じょう	AT
	黒ボク土じょう	A

1-2 土じょう細説

岩石地 RL

日南町生山地区を中心とした伯備線の沿線に花崗岩が露出している。

粗粒残積性未熟土じょう RG-C

日南町高宮地区の南斜面の一部には、過去において、カンナ、タクラなどの砂鉄採取と薪炭林施業による人為的侵食による基岩の露出や、花崗岩の深層風化によるマサ土の崩壊地があり、これらは層位分化は微弱で腐植も少なく、乾燥せき悪な土じょうが分布している。近年アカマツの人工造林がおこなわれているが、生産力は劣る。

乾性かっ色森林土じょう B-d

本調査地の南部を中心とした山腹上部や谷密度の高い丘陵地の尾根筋に幅狭く分布する。

A₀層は厚くよく発達し、A層は薄く堅密で腐植に乏しく、一部でM層がみられることもあり、その理化学性は劣る。西伯町から日南町にいたる島根県境の低山地の一部には、花崗岩の深層風化した、受食系土じょうがみられる。

これらの地域には、低質広葉樹や天然アカマツが多く、その生育は劣る。(林野土じょうのBA, BB, BC型に相当に相当する。)

かっ色森林土じょう B

乾性かっ色森林土じょうの出現する地域の山腹中部から谷筋にかけて分布し、木調査地のおおよそ60%を占める。

一般にA層は厚く腐植に富み、B層はかっ色を呈し、その層位は漸変し、膨軟で粒状～団粒状構造がよく発達した側行～崩積土が多い。

地形により、スギ、ヒノキ、アカマツの造林適地に大別され、日野林業地(日野町・日南町の一部)があり、その生育は良好である。(林野土じょうのBD(d), BD型に相当する。)

湿性かっ色森林土じょう B-W

かっ色森林土じょうの分布するかなり起伏の大きい山腹下部から谷筋に幅狭く極所的に分布する。

A層は非常に厚く、腐植に富み、膨軟な団粒状構造が深くまで発達した崩積土で林野土じょうの一等地にあたり、その生産力は高く、スギの優良林分が多い。(林野土じょうのBE・BF型に相当する。)

乾性かっ色森林土じょう(黄かつ系) B(Y)-d

会見町、西伯町の一部の花崗岩、凝灰岩、流紋岩を基岩とする里山および丘陵性山地を中心にした山腹上部から尾根筋にかけて比較的幅広く分布する。

A層は乾性かっ色森林土じょう同様浅く堅密で腐植に乏しく、B, C層は黄味を帯びた酸性土じょうで、一部に赤色土や黄色土の混在地もみられ、アカマツ天然林や人工造林地がみられるが、その生育は劣る。(林野土じょうのyBA, yBB, yBC型に相当する。)

かっ色森林土じょう(黄かつ系) B(Y)

乾性かっ色森林土じょう(黄かつ系)の出現する地域の山腹中部から谷筋にかけて分布する。

A層は比較的厚く腐植に富み、B、C層の色調はかっ色森林土じょうに比べ黄味が強く黄色土も極部的にみられる。

山腹斜面は、やや乾燥気味となり、アカマツ、ヒノキの造林地が多く、谷筋では附粒状構造が発達し、スギの生育も良好である。(林野土じょうのyBD(d)、yBD型に相当する。)

乾性かっ色森林土じょう(赤かつ系) B(R)-d

溝口町二部地区の野上川流域の丘陵山地の山腹上部から屋根筋にかけてかなり幅広く分布する。

乾性かっ色森林土じょう(黄かつ系)同様A層は浅く堅密で腐植に乏しく、BC層の色調は赤味が強く、その理化学性は劣る酸性土じょうである。

アカマツ天然林や人工造林地がみられるが、その生育は不良である。(林野土じょうrBA、rBB、rBc型に相当する。)

かっ色森林土じょう(赤かつ系) B(R)

乾性かっ色森林土じょう(赤かつ系)の出現する地域の山腹中部から谷筋にかけて分布している。全層土ともかなり深い、構造の発達の不良なものがみられ、B、C層の色調は、赤味を帯び理化学性もやや不良で、アカマツ、ヒノキの造林がおこなわれているが、その生育はやや劣る(林野土じょうのrBD(d)、rBD型に相当する。)

厚層黒ボク土じょう A T

火山灰を母材とした、大山山ろくの西南部に位置する溝口町、江府町の一部を中心にした地域で、表層土が50cm以上で黒～黒かつ色を呈し、山地の緩斜面や谷筋に出現する。

スギ、ヒノキの造林地がみられ、その生育も比較的良好である。

黒ボク土じょう A

前記厚層黒ボク土じょう同様、火山灰を母材とし、黒～黒かつ色の表層土が50cm以下で、溝口町、江府町を中心に日野町日南町の一部の山頂平坦面や緩斜面および山ろく緩斜面などに分布している。スギ、ヒノキの造林地が多く、その生育は、厚層黒ボク土じょうよりやや劣り、江府町御机地区では、夏ダイコンの栽培がおこなわれている。

(鳥取県林業試験場 平尾 勝男)

参 考 資 料

- | | |
|-----------------------------------|-------------------------------|
| 1. 鳥取県林業試験場 (1956~1969) | 民有林適地適木調査報告書 |
| 2. 鳥取県 (1966) | 鳥取県地質図 |
| 3. 林野庁大阪管林局 (1970) | 大阪管林局土壌調査報告
第18報 倉吉事業区 |
| 4. 岡山県林業試験場 (1969) | 岡山県適地適木調査報告書
第15号 「真庭北部地区」 |
| 5. // (1970) | //
16号 「阿哲東部新見地区」 |
| 6. // (1971) | //
17号 「真庭中北部地区」 |
| 7. 鳥根県農林水産部造林課
鳥根県林業試験場 (1975) | 鳥根県民有林適地適木調査説明書
「能義区域」 |
| 8. 経済企画庁 (1967) | 土地分類基本調査 1/5万 「米子」 |
| 9. // (1970) | 土地分類図 1/20万 「鳥根県」 |
| 10. // (1974) | // // 「岡山県」 |
| 11. // (//) | // // 「鳥取県」 |
| 12. 鳥取県 (1973) | 土地分類基本調査 1/5万 「赤碕・大山」 |
| 13. 鳥根県 (1974) | // // 「松江」 |

2 台地, 低地地域の土じょう

2-1 土じょうの概要

本図葉内の土じょうは「根雨」図幅の中央を流れる日野川に沿う沖積土じょうと、「湯本」図幅の北西部の大山山ろく台地に、火山灰に由来する黒ボク土じょうである。

これを土地分類基本調査作業規程準則にしたがって、その断面形態、母材の堆積様式により、次の如く細分した。

なお、当図葉内には古代採鉄により、人工的に砂を流して造成した水田が各所に分散し、分類が極めて困難なため沖積土じょうに一括した。

第7表 台地、低地土じょうの一覧表

土じょう群	土じょう統群	記号
黒ボク土じょう	多湿黒ボク土じょう I	AW-I
	〃 II	AW-II
灰色低地土じょう	細粒灰色低地土じょう II	GL-f-II
	灰色低地土じょう I	GL-I
	〃 II	GL-II
	粗粒灰色低地土じょう I	GL-c-I
	〃 II	GL-c-II
	〃 III	GL-c-III
	〃 IV	GL-c-IV

2-2 土じょう細説

(1) 黒ボク土じょう

多湿黒ボク土じょう I (AW-I)

本土じょうは主に大山山ろく台地の水田で、地形により黒土層の厚さは異なるが厚層腐植質～表層多腐植質である、置換容量、りん酸吸収係数が大きく、有効土層が厚く、排水良好で生産力は高い。

日野郡溝口町、江府町の台地上の水田に分布する。〔柱状図20〕

多湿黒ボク土じょう II (AW-II)

腐植に富む火山灰土じょうが(AW-I)外因的な影響をうけ腐植が退化、混層、埋没したもので、表土の腐植含量は少ないが、断面の状態が黒ボク土じょうの影響を強くうけているため一括してまとめた、理化学性は、混層のものは多湿黒ボク土じょうIと一般の河成沖積の中間的性格をもち、埋没のものは前者(AW-I)と変りない。

根雨図幅内の日野郡日南町、日野町の水田に分布する、山間地水田であるため台地上のものは排水良好で生産性は高いが、谷間水田のものは排水が悪く生産性は低い。

〔柱状図21〕

(2) 灰色低地土じょう

本土じょうはその断面の主要土層の土色(灰～灰かっ色), 下層土の土性, れき層の出現位置により分類した, なお根岡図幅内の日野郡日南町には昔, 採鉄による人工水田が多いが, 広義に沖積土に含めた,

細粒灰色低地土じょう II (GL-f-II)

本土じょうは石見層群, 法勝寺火砕岩層の影響をうけたもので, 主要土層の土色が灰～灰かっ色で, 表土・下層土ともに重粘で, 下層にマンガン結核をもつ土じょうで排水は悪い。

西伯町馬場, 徳永一帯に分布する。(柱状図22)

灰色低地土じょう I (GL-I)

本土じょうはその断面の主要土層の土色が灰～灰かっ色で下層に鉄の斑紋の発達がいちぢるしく, マンガンの結核をもたない, じょう質の土じょうである, 理化学性, 排水は良好で土じょう生産力は中～上である。

日野郡溝口町, 西伯郡西伯町の沖積水田に分布する。(柱状図23)

灰色低地土じょう II (GL-II)

本土じょうは土じょう断面の主要土層の土色が灰～灰かっ色で下層に鉄, マンガンの斑紋, 結核の発達の顕著なじょう質の土じょうで理化学性, 土じょう条件等は灰色低地土じょうIに類似する, 日野川沿いの低位段丘上の水田に分布するが少面積である。(柱状図24)

粗粒灰色低地土じょう I (GL-c-I)

本土じょうは土じょう断面の主要土層の土色が灰色～灰かっ色で表土下30cm以内より砂れき層, れき層, 粘れき層の出現するもので耕土が浅く生産性は低い。

日野郡日野町, 日南町の谷間水田にわづかに分布する,(柱状図25)

粗粒灰色低地土じょう II (GL-c-II)

本土じょうは土じょう断面の主要土層の土色が灰色を呈し下層30～60cm以下より砂れき層, れき層が出現するもので透水性は良好で遊り酸化鉄含量は下層程多くなっており理化学的性質は良好であるが, 花崗岩の影響をうけた山間地水田に分布し, 秋落地帯である。

日野郡溝口町福居, 日野町濁谷一帯の水田が該当する。(柱状図26)

粗粒灰色低地土じょう III (GL-c-III)

本土じょうは表土下30cm以下に砂、砂れき層が出現し表土は粘質で次層がじょう質のものを区分した、鉄の溶脱が甚だしく、下層に集積がみられ、花崗岩風化物の沖積によるもので西伯郡西伯町の平坦地水田に主として分布し排水は良好である。

土じょうの生産力は中庸で水稲は秋落的傾向を示す。(柱状図27)

粗粒灰色低地土じょう IV (GL-c-IV)

本土じょうは土じょう断面の主要土層の土色が灰色～灰かっ色で、下層土に砂層が出現するものである、花崗岩風化物の沖積水田で、表土はしよう質(砂じょう土)、浅耕土で鉄、塩基の溶脱が甚だしく秋落水田が多い。西伯町内の法勝寺川、東長田川上流、溝口野上川に沿う水田がこれに該当する。(柱状図28)

参 考 資 料

- | | |
|----------------------------|------------------------------|
| 1. 鳥取県農業試験場 (1959) | 施肥改善事業調査報告書 (日野川沖積西部地区) |
| 2. " (1960) | " " (日野地区) |
| 3. 鳥取県農業試験場 (1963) | 鳥取県農業試験場調査試験報告 |
| 4. 経 済 企 画 庁 (1974) | 土地分類図 1/20万 (鳥取県) |
| 5. 鳥取県農業試験場 (1967) | 地力保全基本調査成績書 (畑) |
| 6. " (1969) | " (//) |
| 7. " (1964) | " (水田) |
| 8. " (1975) | 鳥取県土地生産性分級図および地力保全対策図 |
| 9. 鳥 取 県 (1975) | 鳥取県土地利用現況図 |

IV 水系，谷密度分布図

水系分布図は 1/25,000, 1/50,000 地形図，空中写真などから認められる谷を記入して作図した。

本地域は一級河川の日野川水系に属し，法勝寺川，東長田川，野上川，俣野川，板井原川などの諸河川の流域面積が比較的大きい。

日野川本流は図葉内で穿入蛇行を行なっている。そして江尾より上流部は流路の方向が西南から東北にのびているが、江尾から下流部は大きく方向を変え西北の方向に流れている。

日野川の支流の各河川は一般に樹枝状の水系パターンを示す。しかし大山火山を侵食する白水川、小江尾川、船谷川、俣野川などの各河川のみは大山主峰を中心として放射状の水系を示し各々の流域は細長い形態になっている。このようなことから火山地域の河川は普通山地の河川の水系とかなり異なっていることが指摘できる。

日野川の流路が東北方向から西北方向に直角に折れ曲ることは、同じ方向の地質構造を反映している可能性がある。図葉内にはこれと同様の方向を示す水系が数多くみられ、空中写真の観察においても東北—西南、西北—東南のリニヤメントが認められる。谷密度は起伏が大きい宝仏山・毛無山山地や岡山県境の山地においては20以上の値を示すが、一般に15~20くらいの谷密度の地域が卓越する。

大山南ろくの火山灰砂地台は谷密度の値が小で、侵食が進んでいないことを反映している。

(鳥取大学 文部教官 豊島 吉則)

V 傾 斜 区 分 図

傾斜区分は 1/25,000、1/50,000 地形図を基とし、それに空中写真の判読をあわせて行なった。

傾斜40°以上の急な斜面をつくっているのは、日野川の河岸の峡谷状地形に多く分布し河川による侵食崖であり、とくに生山、根雨、江尾付近に著しい。また日野川の支流である板井原川、俣野川、白水川の両岸にも急崖が連続する。他方大山南ろくの火山灰砂地地形を侵食する谷壁も40°以上の急崖を連続的に発達させている。これらの他には菅沢ダム南部、鎌倉山の西部及び金花(華)山に急斜面が分布している。

傾斜30~40°の斜面は日野川沿岸、板井原川沿岸の急崖背後に分布する他、宝仏山、毛

無山，鎌倉山村近くに集中している。一般的にその分布は中起伏山地に多い。

傾斜 $20\sim 30^\circ$ の斜面は本図葉でもっとも分布面積の広い斜面で図の全域にわたって散在している。

傾斜 $15\sim 20^\circ$ の斜面は $20\sim 30^\circ$ の斜面に次いで分布面積が広く，日野山地の準平原面，法勝寺川沿岸の小起伏山地・山ろく地や江府町の小起伏火山地に良好に発達する。

傾斜 $8\sim 15^\circ$ の斜面は印賀の盆地付近，鶴の池の南側の山地，門谷，別所の山ろくの緩斜面，西伯町，溝口町の山ろく地に分布する他，江府町の小起伏火山地の平坦面にもみられる。いずれもかなり平坦面として認められる地形でもある。この他谷底平野面に連続する緩斜面や山頂平坦面などとして各所に小面積で分布している。

傾斜 $3\sim 8^\circ$ の斜面は江府町の火山灰砂台地上に広い分布面積をもっている。また，溝口町の山頂平坦面，山ろく地に分布する。この他には谷底平野の最上流側の部分にも細長く分布するが，分布面積は小さい。

傾斜 3° 未満の斜面は日野川沿岸の谷底平野に連続的にみられる。また，西伯町，溝口町の谷底平野にもかなりの面積で分布している。他方溝口町の古市付近にみられる河岸段丘面も平坦であり 3° 以下である。土地利用との関連をみると 40° 以上は露岩が多く， $15\sim 40^\circ$ は森林が卓越する。 $8\sim 15^\circ$ は多少の畑，牧場，草がみられ， $3\sim 8^\circ$ の斜面は水田と畑， 3° 未満の平坦地は水田と集落が立地している。

(鳥取大学 文部教官 豊島 吉則)

VI 開 発 規 制 図

天然の資源を高度に利用するための土地利用計画は自然環境，遺跡文化財等の保護との調和のとれたものでなければならない。

本図葉内における土地利用及び開発を制限する人為的要因は次のとおりである。

1 国 立 公 園

図葉北東部の山地が大山隠岐国立公園の公園区域の一部となっている。この公園区

域の行為制限は自然公園法（昭和32年6月1日法律第161号）によって定められ一定の手続きを経なければならない。

2 県立公園

本図葉内には奥日野県立公園の区域がある。この区域内には保護のための規制に関する計画が樹てられていないので、現在のところ行為の制限はない。

3 保安林

この地域は、日野川流域の上流地帯に位置し、水源の確保と流量調節等のため水源かん養保安林を主体に指定されているが、局所的には、災害の防止を目的とした土砂流出防備保安林、土砂崩壊防備保安林、なだれ防止保安林等が指定されている。

保安林の法的規制は森林法（昭和26年6月26日法律第249号）により規定されている。

4 鳥獣保護区

日南湖周辺及び鶴ノ池周辺が鳥獣保護区に設定されている。この区域内では巣箱、給餌台、給水器等を設置し鳥獣の保護繁殖が図られ、同時に鳥獣保護及狩猟ニ関スル法律（大正7年4月4日法律第32号）によって鳥獣の捕獲が禁止されている。

5 砂防指定地

砂防設備を必要とする土地、又は、治水砂防のための一定の行為を制限しようとする土地は砂防指定地に指定されている。これら砂防指定地には、砂防えん堤、流路工などの砂防工事が実施されており、本図葉内には67河川が指定されている。

砂防指定地内の行為制限は砂防法（明治30年3月30日法律第29号）によって定められている。

6 急傾斜地崩壊危険区域

急傾斜地崩壊危険区域は急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律（昭和44年7月1日法律第57号）に基づき指定されるもので図葉内に6か所指定されており、急傾斜地の崩壊防止工事の実施並びに行為制限措置などが講ぜられている。

7 地すべり防止区域

本図葉内の地すべり防止区域は溝口町に1か所、日野町に1か所指定されている。地すべり等防止法（昭和33年3月31日法律第30号）によって地域の保全と民生の安定のための防止策が講ぜられるとともに、行為の制限がとられている。

8 国 有 林

本図葉内の国有林は江府町伏野、溝口町福岡、日野町久住、小河内、上管に存在する。国有林を借受け又は使用する場合には、国有林野法（昭和26年6月23日法律第246号）により営林署長又は営林局長の承認を要する。

9 天然記念物及び埋蔵文化財

本図葉内には天然記念物として指定されているものが4件あり、それぞれ文化財保護法（昭和25年5月30日法律第214号）及び鳥取県文化財保護条例（昭和34年12月25日鳥取県条例第50号）によって保護されている。

また、文化財保護法では埋蔵文化財についても保護上必要な規定が設けられており、この図葉内には65か所の遺跡が確認されている。これらに関する法的規制等の概要は、次のとおりである。

(1) 許可を必要とするもの

史跡、名勝、天然記念物に関する現状変更等の制限

国指定 文化庁長官（文化財保護法第80条）

県指定 県教育委員会（鳥取県文化財保護条例第34条）

(2) 届出を必要とするもの（文化庁長官）

埋蔵文化財の発掘（法第57条、第57条の2）

遺跡の発見（法57条の5）

(3) 通知を必要とするもの（文化庁長官）

国の機関、地方公共団体、国若しくは地方公共団体の設立に係る法人で政令の定めるものが、周知の遺跡を発掘しようとするときあるいは新たに遺跡を発見したとき

埋蔵文化財の発掘（法第57条の3）

遺跡の発見（法第57条の6）

なお、埋蔵文化財については資料が十分でないため、県教育委員会では昭和47年度から分布調査を継続中であり、開発計画の策定にあたっては教育委員会と十分事前に協議することが望ましい。

また餅が滝地区は国指定特別天然記念物「オオサンショウウオ」の生息地として指定されることが決定しているため、開発計画の策定にあたっては特に注意が必要である。

10 特殊専用地区

本図葉内の特殊専用地区は図葉北東部大山山ろくに位置する防衛庁日光演習場敷地だけである。

(鳥取県農林部農業指導課)

<資料提供機関>

企画部企画課，衛生環境部自然保護課，農林部林務課，農林部造林課，土木部砂防利水課，鳥取県教育委員会事務局文化課

VII 土地 利用 現 況 図

1 農 地

(1) 水 田

この地域の農業は日野川、法勝寺川、東長田川、野上川、印賀川沿いに開けた水田と、大山山ろく台地に広く分布する多湿黒ボク土じょうの水田を主体として行われている。

低地土じょうで西伯町の石見層群の影響を強くうけた水田が粘質のほかは、殆どが花崗岩の影響をうけた粗粒灰色低地土じょうが占めている、河川流域の水田は排水良好で浅耕土、鉄ならびに諸塩基の溶脱が甚だしく秋落地が多い。

合地上の水田は表層多腐植質多湿黒ボク土じょうで有効土層が厚く理化学性、日照良好で生産力は高い。

水田の利用形態は牧草、花木が一部栽培されているが、殆んどが水稻単作である。

(2) 畑（普通畑・牧草畑）

畑地は主に溝口町・江府町の大山山ろく台地に分布し腐植含量は高いが強酸性、塩基、りん酸に欠乏する土じょうで全般に不良土じょうといわれている。

その他全域にわたって分布するが自家用畑として利用されている、畑地利用形態は江府町でだいこん、溝口町ですいかが栽培されている。

2 林 地

本図葉内の国有林は、江府町俣野、溝口町福岡、日野町久住、小河内及び上菅に位置し、スギの人工林とマツ及び広葉樹の天然林が大部分である。

民有林はスギの人工林と広葉樹の天然林が大半を占め、混交林は西伯町、溝口町に分布している。マツの天然林は溝口町に部分的に見られるほか、分布は少ない、保安林は水源かん養保安林が全町村に広く指定され、土砂流出防備保安林、土砂崩壊防備保安林及びなだれ防止保安林が部分的に指定されている。

3 都 市 ・ 村 落

本図葉内には都市はないが河川の流域に村落が発達している。

あ と が き

- 1 本調査は、国土調査法（昭和26年6月1日法律第180号）第5条第4項の規定により昭和52年7月7日国土調査の指定を受け、国土庁の都道府県土地分類基本調査費の補助金により、鳥取県が調査主体となって実施したものである。
- 2 本調査成果は国土調査法施行令第2条第1項第4号の2の規定による土地分類基本調査図及び土地分類基本調査簿である。
- 3 調査の実施、成果の作成関係機関及び関係担当者は下記のとおりである。

指 導 国土庁土地局

総 括 鳥取県農林部農業指導課

課 長 西尾 遼富

//

課長補佐 中野 亮一

企業調整編集

//

//

小川 末広

//

主 任 池内 孝明

地形調査 鳥取地学調査会鳥取大学教育学部

文部教官 豊島 吉則

表層地質調査 鳥取地学調査会鳥取大学教育学部

文部教官 赤木 三郎

土じょう調査 鳥取県農業試験場

土じょう保全科長 西尾 一雄

鳥取県林業試験場

研 究 員 平尾 勝男

土地利用現況調査 鳥取県農林部林務課

課長補佐 角脇 智

鳥取県農業試験場

土じょう保全科長 西尾 一雄

開発規制調査 鳥取県農林部農業指導課

主 任 池内 孝明

- 4 協力機関は次のとおりである。

鳥取県企画部企画課 鳥取県企画部統計課 鳥取県衛生環境部自然保護課

鳥取県農林部林務課 鳥取県農林部造林課 鳥取県土木部砂防利水課

鳥取県教育委員会事務局文化課

1978年3月 印刷 発行

鳥取県南地域

土地分類基本調査

根 雨・湯 木

編集発行 鳥取県農林部農業指導課

鳥取市東町一丁目 220

印 刷 緑川地図印刷株式会社

東京都墨田区吾妻橋二丁目18番3号